

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700076		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム ユーカリ優都びあ		
所在地	千葉県佐倉市青菅1023-6		
自己評価作成日	平成25年10月13日	評価結果市町村受理日	平成26年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成25年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1日の活動予定をあまり決めず、利用者の希望を優先している ・施設の目の前にケアガーデンを有し、恵まれた環境にある ・学童保育を併設しており、お子さんとの交流が日常的に行える ・全室南向きの個室で、家具の持ち込みも可能 ・入浴に準天然光照明石温泉を採用し、温浴効果を高めている ・リビングは約5メートルの高さから採光を採り入れ、明るい雰囲気。また、床暖房を装備し、真冬でも暖か

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>緑の屋根の平屋の玄関を入ると5mの吹き抜けの学童保育施設があり、ホームの中に入るとゆったりとしたダイニングリビングにウッドデッキがあり、多目的な広々としたケアガーデンに出ることもできる。アニマルセラピーを行ったり、グランドゴルフもできる。居室は日当たりのよい南向きである。一人ひとりとユックリ会話することを大切に、その時々で出来ることに柔軟に対応するケアに努め、「共に助け合う家族・可能性をたたえ合う家族」との理念の実践に努めている。もう一つの理念「地域の方々とのあたたかなふれあい」の実現を工夫することと運営推進会議開催を工夫することが期待される。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所だけでなく、職員ネームプレートにも差し込み、常に意識出来るようにしている	先入観にとらわれずやってみて頂く中から出来ることを見つけて、共に助け合いながら、出来るだけ長く自立した生活ができるケアサービスを通して、運営理念の実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ買い物。地域開催の敬老会への参加など、交流を図るようにしている	近隣の小学校での運動会や敬老会に参加、花工房リーベやふるさと体操やホーム前庭のグランドゴルフに近隣の方にも参加を呼び掛けている。近隣のスーパーへの買い物等を通して交流するよう心掛けている。	地域のボランティア団体や民生委員の方との接触を図る等、地域の方々とのあたたかなふれあいの機会を更に広げていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方など、施設に興味がある方には、自由に施設内外を見学し対応している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族から上がった声を汲み取り、サービスに繋げるようにしている	今年度は未だ開催できていない。	運営推進会議の本来の意義、必要性等を今一度原点に立ち返って、実施していくことを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、介護相談員が来訪し、意見交換を行っている	高齢者福祉課担当職員とは電話連絡等で気軽に相談し合える間柄である。毎月介護相談員の方に来て頂き、意見交換をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。施錠しない方針ではあるが、安全面を考え、正面玄関は時間を決めて施錠。学童、ユニットの行き来は自由だがチャイム音で動きが把握出来るようになっている	「身体拘束ゼロへの手引き」を使用して研修を行っている。新入職員にはマニュアルや介護方針等とOJTを通して、身体拘束についての理解を高めるようにしている。言葉による抑制や薬剤による抑制等についても職員は理解しており、日常のケアの中で、互いに注意し合うようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施。職員同士見過ごすことがないように注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方がおり、資料による職員の理解を促すようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書、生活上のリスクをご家族と一つ一つ確認している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に直接話をしたり、サービス提供書を渡す際など、機会を見て意見を聞いている	家族面会時等に一家族ずつ要望や意見を伺うようにしている。予防接種への対応、薬の領収書の発行や医療費関係の費用等、頂いた意見要望を極力反映するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面接の際に、リーダーと話す機会はあるが、代表者や管理者とはそういった場は設けていない。管理者とは日々の中で職員から話があれば伝えることは出来る	正職員とは年2回、非常勤職員とは年1回人事考課面接の機会がある。管理者は日常的に職員と話す機会を多くし、意見要望等を話し易い雰囲気作りをしている。事務所レイアウトを玄関と入居者の見守りと両ユニットの通路を確保できるよう変更したり、風呂場の消耗品置き場を作る等に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面接などで直属の上司とは話す機会があるため、一般職員の意見等も管理者や代表者の所まで吸い上げられている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について、掲示板に張り出されており、各職員が希望すれば受講することが出来る		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を持つことは出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前情報をもとに、日常生活の中で本人の希望を聞きとり、安心した生活が送れるように努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、積極的に声をかけるようにし、事前の要望と本人の要望を擦り合わせしながらサービス提供に繋げている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族と定期的に面談している。納得の上でサービス提供し、新しい問題点を話し合い、見極めを行いながら、次のサービスへ繋げている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ることはなるべく自分で行ってもらい、出来ない事は一緒に行き、人として対等な関係性を築けるように努めている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者本人の事で一緒に悩み、解決の方向へ向けることが出来るよう、家族来訪時には積極的に話掛け関係作りに努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>希望や本人の状態に応じて、家族へいつでもTELできる環境作りなど行っている</p>	<p>自治会活動を共にしていた友人や老人大学での友人が訪ねてきたり、お墓参りやスーパーへ買物に家族がお連れすたり、花火大会に職員がお連れしたり、電話の取り次ぎを支援したりしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>それぞれの性格を把握し、状況に応じて橋渡しを行っている。また、個々で築いた関係性は大事にし、日常生活に活かしながら見守っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた入居者の面会、また退所の際のアルバム作成など、関係が途切れなないようにフォローしている		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で聞き出し、本人の意向に沿えるよう検討しながらケアを行っている	本人と家族の言葉に耳を傾けている。会話でのコミュニケーションが難しい方でも、本人の動作、表情、身体状況を観察し、いつもの変化や不快等のシグナルをよみ対応している。また、コミュニケーションの工夫としてジェスチャーや作成した筆談カードを用いている。センター方式の「心身の情報(私の姿と気持ちシート)」を使用して本人の思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をもとに家族からも聞き取り日頃のケアにつなげている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケア記録を活用。個人に対する申し送りファイルを共有し現状を把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族、医師への相談する機会を設け、ケアに反映している	月に一度のミーティングで、気になる入居者についてアセスメントを行い話し合う。家族面談は半年に一度行っている。センター方式「心身の情報」シートは職員から情報を集めてケアマネジャーが記入している。アセスメントとモニタリング後にミーティングを行いプランの原案を作成し、家族との面談でプランを説明して家族の意向も確認している。計画実施表を取り入れて全職員によるサービス内容の把握にも努めるようにしている。	全職員によるモニタリングとアセスメントを行う工夫として、センター方式「心身の情報」シートを土台に、利用者の言葉や現状を随時記入できるような様式の作成を検討されているとのこと、是非実施され、職員のケアプラン参画と意識の向上を図られることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケア記録活用。個人申し送りファイルにより日頃の変化(急変、特変)を把握出来るようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに応えている。その場、その時、臨機応変に対応出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、学童の子供達との触れ合いなどの支援をしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望むかかりつけ医を受診してもらっている。訪問診療を利用している方もいる	かかりつけ医の受診は家族が同行している。受診時には家族に利用者の情報を伝えて、受診後は家族から内容を聞き、ケースごとの申し送りノートに記入して職員で情報を共有している。急な体調不良の時には家族に連絡し、隣の医院を受診している。往診医の訪問は毎週となっており、本人の状況と医師の処置を「申し送り 返答・処置」の書式で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ないため、日々の様子を観察、記録に残し訪問診療、外部受診に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、見舞い、面会に行き状況を把握。家族と話し合いながら、早期退院に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態を把握し、検討した上で、ご家族との相談、話し合いをし他の施設等へスムーズに転居出来るよう努めている	手すりを使用して職員一人介助で入浴ができなくなったら他施設入所となることを入居時に伝えていく。看取りは行ってないので、他施設にスムーズにつなげる支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは用意されているが、定期的な実践訓練は出来ていない		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。備蓄倉庫を設置。数日しのげる食料等、最低限必要なものを備蓄	昼間を想定した避難訓練を2回実施。スプリンクラー設置済み。夜間は15分以内に職員10人が駆けつけることが可能。備蓄は三日分を用意。災害時には法人の隣接施設の協力が得られるとともに、井戸も使用可能である。	夜間想定避難訓練と新人職員の訓練参加を検討されているので、是非実施して、全職員が避難誘導をスムーズにできるようにしておくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の人格を尊重し接している。特に排泄の際は周囲にもさりげなく介助するように心がけている	スピーチロックとなるような言葉かけはしないようにし、職員の言葉かけで気になる時には、すぐに話し合っている。トイレ誘導の声かけは他の人にわからないように行い、排泄介助では室外で待機し、個室内で安心して排泄してもらえるよう支援している。希望のある利用者には同性介助を行っている。消灯時間後の居室でのテレビ鑑賞や日中でも居室で過ごしたい方の思いを尊重している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような言葉掛けをしている。アピールしている姿は見落とさず、キャッチ出来るよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールをあえて決めずに、本人のペースで生活出来るようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は利用者本人に任せるが、整髪、髭剃りなど身だしなみの声掛けはしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	押しつけにならないよう、能力に合わせながら家事行為を一緒に行うようにしている	利用者は調理、盛り付け、皿洗い、食器拭き、下膳を行っている。週に一度、麺の日とパンの日があり、季節を感じる行事食や、筍やキュウリ、ゴーヤなどを収穫して食べる機会もある。耳の遠い方とは手作りの専用カードを用意してコミュニケーションをとりながら食を促している。三食を摂らない方には栄養補助剤や好みのものを用意して本人の望むタイミングで提供している。	外食を含めたイベント食事に関する企画を検討されているので実施されることを期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日全員チェックしている。通常の食事が摂れていない方には補食を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれに合わせた口腔ケアを促し、介助をしている。おもに起床時、就寝時。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用。排泄パターンを把握し誘導、サインを見逃さないよう努めている。ポータブルトイレを使用している方もいる	リハビリパンツとパットを併用していた方が、布パンツ使用へと改善したケースがある。立位がとれればトイレでの排泄支援を行い、職員二人で対応しているケースもある。夜間ポータブル使用の方もいる。利用者が不快な思いをしないよう取り組み、自立に向けた排泄支援を行うことができている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけでなく、乳酸飲料を個別に提供したり、水分不足にならないように声掛けしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	独りで入浴可能な方は夜間浴をしている。入浴介助は個々に合わせ行っているが、入浴時間については利用者全員の安全が確保できる時間帯、人員配置の時にしている。午前入浴もあり	利用者の希望に沿った時間で対応し、湯は一人ずつ入れ替えている。毎日入る方を含め、利用者のペースを尊重している。石鹸類はそれぞれ利用者のもを使用している。パスボードを使用する方もいる。準天然光明石温泉を採用し温浴効果を高めるとともに、季節によっては保湿効果のある入浴剤を使用している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、入眠出来るような雰囲気作りは心掛けている。個々の状態により夜間パット交換を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれに合わせた服薬方法で服用している。処方箋ファイルがあり、職員全員がすぐ参照、確認することが出来る		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、ガーデン散歩や近所に買い物に行くようにしている。それぞれの出来る力を見つけてながら、楽しみを増やせるよう努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、買い物など支援している。また、家族の協力も得ながら実施している	晴れている日は外に出ている。買物に同行する利用者が3～4人いる。利用者の気持ちが外に向いていれば、職員と一緒に外を一回りしている。法人のお祭りに参加したり、バラ園、イチゴ狩りにも出かけた。週に2回4名の方がグランドゴルフを行い、月に1度の庭でのアニマルセラピーを楽しむ。家族と外出する方は5～6名あり、美容室や買物を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、事務所で預かり保管しているが、公衆電話をかける小銭を所持している方もいる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を利用して家族への連絡を取っている方もいる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内設備が利用者にとって習慣が無く混乱をまねくことがある。写真を掲示することで家族に様子がわかるようにしている。	リビングは約5メートルの高さから採光を取り入れ明るく、床暖房を装備し真冬でも暖かい。リビングから続くウッドデッキで日向ぼっこをすることもある。ホームの前にはケアガーデンがあり、気軽に散歩を楽しむことができる。学童保育が併設されており、学童のイベントに参加することもある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を工夫したり、時には席を変えてみたりと、なるべく穏やかに生活してもらえるように配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の写真を飾ったり、私物を持ち込んでいただくなど、自分の部屋と意識していただける工夫をしている	全室南向きで、カーテン、電気、エアコン、洗面台が完備、各部屋に手作りの表札がかけられている。仏壇、ぬいぐるみ、タンス、テレビ、冷蔵庫などを持参され、訪問者と写真ととり居室に飾っている部屋もある。歩行の心配な方は、家具に手をつけるような配置に模様替えすることもある。また、転倒しやすい方ではケガ予防のためにカーペットを敷いたり、センサーマットを使用している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで場所を示したり、手摺の代わりにテーブルを利用したり、出来るだけ自立した生活を送れるように工夫している		